

示現流兵法とは

■ 流派名 示現流兵法 (じげんりゅうひょうほう)
■ 目標・ねらい

示現流は、「一太刀の打ち」と言われる。一太刀の激しい攻撃がそのまま防禦を兼ね、機先を制す。何事を行うにも生死一如の真剣な境地を養うべく、古来生死の境の中で真剣に行ってきた人達の「業の集積」「心の集積」として伝授されてきた型を稽古することにより、強靱な肉体と精神の鍛練に努めるのが目標。

■ 歴史(流祖伝)

示現流兵法は、東郷藤兵衛肥前守重位(ちゅうい)を流祖とする薩摩独特の兵法で、今日においても鹿児島県の精神文化に強い影響を与えている。

流祖重位は、始め藩内で行われていた待捨流を学び、二十歳で極意に達した。その後、天正十五年(一五八七年)第十六代太守島津義久公に従って上洛した際、天真正自顕流の奥義を極めた京都天寧寺の善吉和尚と邂逅し、強いて教えを乞い、修行すること半年有余、奥義の相伝を受けた時が二十八歳であった。天正十七年薩摩に帰った重位は、屋敷内全部の木を打ち枯らすほど心技を練ること三年、待捨流と天真正自顕流の精髓を総合渾和して編み出したのが「示現流兵法」。

重位四十四歳の時、第十八代太守家久公より、薩摩藩の剣術師範役を命ぜられ、家久公は重位を師として、示現流の奥義を極められ、また歴代の太守も示現流の奨励に努められた結果、薩摩士風の振興に貢献するところとなった。

さらに第二十七代太守斉興公は、「御流儀示現流」と称するよう命ぜられ、門外不出とされた。爾来四百余年、時世に迎合せず当初そのままの姿で一子相伝され、歴代の古文書(県指定有形文化財東郷家文書)と共に、現在第十三代宗家東郷重賢に伝承されている。また、平成七年に示現流の正確な伝承、振興を期するため「財団法人示現流東郷財団」が、第十一代宗家重政の遺志を奉じて設立され、平成九年五月一日に、示現流兵法所並びに史料館が完成、これまで門外不出とされ非公開になっていた歴代古文書等が一般にも公開されるようになった。さらに平成二十五年には公益財団法人となり、第十三代宗家重賢が理事長に就任、示現流の保存、普及に情熱を傾けている。

「系譜」東郷藤兵衛肥前守重位―重方―重利―実満―実昉―実乙―実位―実明
―重矯―重毅―重政―重徳―重賢

■ 活動状況

毎年五月二十五日に行われる薩摩義士頌徳慰霊祭や、戊辰の役戦没者慰霊祭を始め、各種記念式典での奉納演武、日本古武道大会、鹿児島県古武道大会等各種古武道大会への参加。夏休み等における示現流体験教室の開催等。

現存している古武道の中で、創流当時の姿が、正確に伝承されている貴重な古武道で県指定有形文化財の東郷家文書は、平成五年、重位没後三百五十年を記念して東郷家の協力により「示現流兵法・資料と研究」として国立鹿屋体育大学より刊行され、また「かごしま文庫」でも同大学村山輝志教授の編著により紹介されている。日本の古武道、鹿児島県の精神文化を語る上で、示現流は欠かすことのできない存在で今後さらに研究が進められるものと思われる。

■ 代表者 示現流兵法第十三代宗家 東郷重賢

■ 公益財団法人示現流東郷財団(理事長 東郷重賢)

■ 示現流兵法所史料館(鹿児島市東千石町二番二号 ☎〇九九―二二六―二二三三)

○入館料 大学生・一般 五〇〇円(十五名以上の団体は、一〇〇円引き)

小・中・高 三〇〇円()

○休館日 毎週月曜日(但し、祝日の場合火曜日)